DRAFT

「こんな時どう言う？―電車の中で」【台本】(1人Ver.)

収録日：2024／●／●　収録場所：Coto Academy SHIBUYA

公開日：2024／●／●

パーソナリティ：○○先生（拠点：）

✓ 想定するリスナー層 ： 日本語学習者・生活者

- リスナーの疑問　　：こんな時、どう言う？
- ラジオ番組の効果①：リスナーの日常の疑問が解決
- ラジオ番組の効果②：日本語のリスニング能力の向上
- リスナーのメリット：日本での生活がより快適になる

✓ 本番組の構成

- オープニング：番組紹介 & BGM（1分）
- コーナー1　：「」（●分）
- コーナー2　：「」（●分）
- コーナー3　：「」（●分）
- コーナー4　：「」（●分）
- エンディング：出演の感謝 & 締めの言葉（1分）

以下、本番組のタイムテーブルです。

✓ 本番組のタイムテーブル

TIME	FLOW（全体の尺：●分）
00:00	■ オープニング：番組紹介 & **BGM**（1分）

□ 番組紹介　※イントロは毎回同じことを言う。

M：　みなさん、こんにちは！お元気ですか。

今日も「こんな時、どう言う？」が始まりました。

この番組ではテキストには書いていない、レッスンでは出てこない、でもネイティブが毎日普通に使っている日本語をシーン別に毎回お届けします。

ここでは私たちがいつもレッスンをする中で色々な学生さんから質問されたり、外国人の友だちに聞かれたりしたことを、ぜひ皆さんにもお伝えしたいと思っています。

これを聞いてもっと日本の事を知ってもらったり、日本の生活が楽しくなることを願っています。

毎日数分この番組を聞くだけで、きっとあなたの日本語がどんどんレベルアップします！

・コーナー１：日本の朝の通勤ラッシュの紹介（●分）

M：　皆さんは東京で朝の時間帯に電車に乗ったことがありますか。（←必ず質問から）

日本の朝の通勤電車と言えば、とにかく混んでいることで有名です。これを「通勤ラッシュ」と言うのですが、これは主に「上り電車」で見られます。日本では東京に向かう電車を「上り」、東京から各地に向かう電車を「下り」と言います。

ちなみに、この「上り」「下り」という言い方は、電車だけでなく、新幹線や高速道路でも使う言い方です。

さて、話を戻しましょう。多くの会社のオフィスは主に都心にありますから、朝は東京方面の電車に人が集中します。さらに、始業時間はだいたいの会社で9時ですから、どうしても同じ時間に同じ方面に向かう人が多くなってしまいます。

この結果、乗車率が120%、150%、路線によっては180～200%にもなってしまうんです。つまり、その車両の定員の1.2倍～2倍の人が乗車することになります。

乗車中は知らない人と密着して、電車が揺れるたびに押したり、押されたり。そして駅に着くたびにたくさんの人が乗り降りし、ドアが閉まるときは駅員さんが押したりします。自分が降りる駅までに、どんどん車内の奥の方へ押されて行ってしまうこともよくあります。

―では皆さん、ちょっと想像してみてください。（←これは毎回の決めゼリフ）

さあ、次があなたの降りる駅です。いま車内の奥の方にいますが、次の駅では絶対に降りなければなりません。自分の周りにはたくさんの人がいます。

ピンチですね。みなさんこんな状況を経験したことがありますか？

こんな時、みなさんは一旦周りの人になんと言いますか？。
(控えめなthinking time的な音があってもいいですね！)

・コーナー2：フレーズ①の紹介（●分）

M：では、「こんな時、どう言う？―電車の中で：①混んだ電車で降りたい時」**のフレーズをご紹介します。**

――「すみません。降ります。」これだけです。
こんな時は、「降りたいです」とか「通してください」とか「お願いします」とか日本語のリクエストフレーズやワードは使いません。私たち日本人は自分の意思をシンプルに伝えるだけ、自分の次の行動を宣言するだけなんです。
これを言うだけで、あなたの周りにいる人は、あなたがドアの方へ行かれるよう体を動かして道を作ってくれるんです。
これはとても便利なフレーズですので、ぜひ明日から使ってみてください。

・コーナー３：次のシーンの紹介（●分）

M：　ではもう一つ、ここで皆さんに質問です。（←必ず質問から）
日本の電車の忘れ物で一番多いものは何だと思いますか。
――答えは「カサ」です。
なんと、交番や鉄道会社に届けられるカサの忘れ物は、年間で約30万本と言われています。一日平均、約820本のカサが電車などに忘れられている計算になります。
これは実に驚くべき数字です。もちろん、毎日雨が降るわけではありませんから、カサの忘れ物は雨の日や雨上がりに集中することになり、鉄道会社ではそれを少しでも減らそうと、車内アナウンスで呼びかけています。
「本日、カサのお忘れ物が大変多くなっております。電車を降りる際は、どなた

様もいま一度ご確認いただきますようお願い申し上げます。」

聞いたことがありますか。

もし今度、雨の日に電車に乗ることがあれば、気にしてみてください。

―では皆さん、ちょっと想像してみてください。（←これは毎回の決めゼリフ）

もしあなたの隣に座っていた人が駅で降りる時、電車の中にカサを忘れています！

よく日本人はドアの隣の席のバーにカサを掛けることがあります。自分の手で持っていないと、降りる時にカサの存在を忘れてしまうことが多いんです。

今なら間に合う！みなさんだったら何と言って声をかけますか？

・コーナー４：フレーズ②の紹介（●分）

M：では、「こんな時、どう言う？―電車の中で：②誰かの忘れ物に気付いた時」**のフレーズをご紹介します。**

「カサ、忘れてますよ。」これだけです。

「すみません、これはあなたのカサではありませんか。」とか「あなたのカサがここにありますよ。」とか疑問文（クエスチョン）や存在文（There is）は使わないんです。“（あなたは自分の）カサを（持って行くことを）忘れています”という事実をシンプルに伝えるだけなんです。

他にも落とし物をした人に「落ちましたよ。」と言ったりします。

■エンディングトーク ： 本日のまとめ＆ 締めの言葉（１分）

今日ご紹介したフレーズは、どれもとてもシンプルですが、知らないと言えないフレーズですよね。

それではなぜこんなにシンプルな表現なのか。

―答えは簡単、「時間が限られているから」です。

電車が駅に着いてドアが開いてから閉まるまでのほんの少しの時間、具体的には20～30秒しかない中で、「自分がこの駅で降りたいこと」、「降りようとしている人

がカサを忘れていること」を確実に伝え、目的を果たさないといけないんです。

この状況下では「文法的に正しい日本語を使うこと」より、「伝えたいことが確実に伝わること」が優先されます。

こういうことは日本語のテキストには書いていないですし、レッスンでも習わないことですから、この番組では毎回、日常生活の中でのネイティブの使い方・言い方を、テーマやシーンを決めてお伝えしたいと思います。

知っている表現だけど知らないと使えない表現、覚えておくととても便利で日本での生活がより快適になるフレーズをこれからもご紹介して行きます。
この番組を聞いて「生活の日本語」「生きた日本語」をたくさん覚えて、ぜひ実際に使ってみてください。

では最後に今日のフレーズをもう一度。（←最後に必ずフレーズ復習タイム）
「すみません、降ります。」、「カサ、忘れてますよ。」、「落ちましたよ。」

M：最後まで聞いてくださり、ありがとうございました。（←必ずお礼と締めを入れる）
それでは、次回もどうぞお楽しみに！また聞いてくださいね！さようなら～。

✓ **事前打ち合わせMEMO＆資料欄**

